【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	
科　　目	ベーシック地学β	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	地学基礎（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） チェック＆演習 地学基礎（数研出版）
科 目 概 要	地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。				
到 達 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。大学入試センター試験「地学基礎」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。				
家 庭 学 習	・家庭学習において、履修した内容について教科書や副教材の問題演習を通して必ず復習すること。				
備　　考	・評定については，下記の４観点を総合して５段階でつける。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第４部 宇宙の構成							
第１章 太陽系と太陽	５	・太陽系の誕生について理解し，太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源	○	○		○	・太陽系の構造や構成天体の性質を、太陽系の誕生に関連づけて理解する。また、太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源
第２章 恒星としての太陽の進化	５	及び太陽系の天体について理解する。恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。	○	○		○	について理解を深める。 ・恒星の明るさと色について理解し、恒星の誕生と進化について
第３章 銀河系と宇宙	５	・銀河系とまわりの銀河について学び，宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。	○	○		○	ＨＲ図を用いて説明できる。 ・銀河系とまわりの銀河について理解し、宇宙の誕生と銀河の
第５部 自然との共生							分布についての理解を深める。
第１節 地球環境と人類	４		○	○	○		
第２節 日本の自然災害と防災	４	・人類が自然から多様な恩恵を受けていること、日本の自然災害と防災について理解する。	○	○	○		・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解する。 ・日本の自然災害と防災について理解する。
第３節 地球環境に及ぼす人間活動の影響	４	・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解する。	○	○		○	・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解する。
総合問題演習	１２	・各分野の知識・理解を関連づけて応用する。	○	○	○	○	・地学の各分野の知識・理解を関連づけて考察し、応用することができる。

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	化学　（啓林館）
科　　目	理系化学β	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	五訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	
＜3年前期＞ 理系化学β							
第４章 溶液の性質	１４	溶解平衡と溶解度		○		○	・固体と気体の溶解度を求めることができる。
		希薄溶液の性質、コロイド		○		○	・濃度と沸点、凝固点の関係やコロイドの性質を理解できる。
第2部 物質の変化と平衡							
第１章 化学変化と熱・光エネルギー	１０	反応熱と熱化学方程式		○		○	・ヘスの法則を用いて反応熱を求めることができる。
		光とエネルギー、ヘスの法則		○		○	・化学エネルギーの差と発生や吸収について理解できる。
		●探究活動　ヘスの法則の検証	○		○		
第２章 化学反応と電気エネルギー	１８	電気分解		○		○	・電気分解における電極での反応を電子を用いて考えることができる。
		●探究活動　電気分解	○		○		
		電池		○		○	・酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みを理解できる。
第３章　反応速度	１２	反応速度化学反応と触媒		○		○	・反応速度と濃度、温度との関係が理解できる。
第４章　化学平衡	１８	平衡とその速度		○		○	・平衡移動の原理を理解できる。
		電離平衡		○		○	・ｐＨや弱酸、弱塩基の電離平衡について理解できる。

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	化学　（啓林館）
科　　目	理系化学β特講	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	五訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・有機化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・高分子化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜３年前期 ＞ 理系化学β特講							
第4部 有機化合物							
第１章 有機化合物の特徴と構造	５	有機化合物の特徴と構造		○		○	・有機化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
		有機化合物の分析		○		○	
第２章 脂肪族炭化水素	７	飽和炭化水素、不飽和炭化水素		○		○	・炭化水素の種類と命名法，立体構造や性質を理解できる。
第３章 酸素を含む脂肪族化合物	１０	アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステル		○		○	・アルコール，エーテル，アルデヒド，ケトン，カルボン酸，エステルなどについて，特徴的な性質を理解できる。
		●探究活動1 アルコールの性質	○		○		
		●探究活動1 銀鏡反応、ﾌｪｰﾘﾝｸﾞ反応	○		○		
		●探究活動1 エステルの合成	○		○		
第４章 芳香族化合物	９	芳香族炭化水素		○		○	・芳香族炭化水素の種類と命名法，性質を理解できる。
		●探究活動2サリチル酸メチルの合成、	○		○		
		●探究活動2ニトロベンゼンの合成	○		○		
		●探究活動3 メチルオレンジの合成	○		○		
第５章 生活と有機化合物	１	医薬品 （染料・洗剤、糖類とアミノ酸）		○		○	・有機化合物と生活の関わりを化学的な側面から調べようとする事ができる。

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	化学　（啓林館）
科　　目	理系化学γ	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	五訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科 目 概 要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到 達 目 標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留 意 事 項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜3年後期＞ 理系化学γ							
第３部 無機物質	８	周期表と元素の性質、水素と希ガス		○		○	・非金属元素の単体や化合物の性質を理解できる。
第１章 非金属元素と周期表		ハロゲン、酸素・硫黄、窒素・硫黄、炭素・ケイ素とその化合物		○		○	・典型元素の性質を周期表と関連させて考えることができる。
第２章 典型金属元素	９	アルカリ金属、２族元素とその化合物 アルミニウム・亜鉛などとその化合物		○		○	・典型金属元素の単体や化合物について，その性質や用途を理解できる。
第３章 遷移元素	９	遷移元素の特徴 金属イオンの分離と確認 ●探究活動　金属イオンの分離	○	○	○	○	・遷移元素の特徴を理解し日常生活と関連させて考えることができる。
第４章 生活と無機物質	３	金属の利用、セラミックス		○		○	・身の回の金属について、その性質から考えることができる。
第４部 有機化合物							
第１章 有機化合物の特徴と構造	１	有機化合物の特徴と構造 有機化合物の分析	○	○			・有機化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 脂肪族炭化水素		飽和炭化水素、不飽和炭化水素	○	○			
第３章 酸素を含む脂肪族化合物		アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステル	○	○			
第４章 芳香族化合物		芳香族炭化水素	○	○			
第５章 生活と有機化合物		医薬品、染料・洗剤、糖類とアミノ酸	○	○			
第5部 高分子化合物							
第１章 高分子化合物の分類と特徴	１	高分子化合物の分類と特徴	○	○			・高分子化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 合成高分子化合物		合成繊維、プラスチック、ゴム	○	○			
第３章 天然高分子化合物		糖類、タンパク質、核酸、繊維	○	○			
第４章 生活と高分子化合物		衣料、高分子化合物の利用	○	○			
センター試験対策							
家庭学習期間	１８ ３２	ｾﾝﾀｰ試験対策演習		○		○	

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	化学　（啓林館）
科　　目	理系化学γ特講	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	五訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・有機化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・高分子化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
A．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
B．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
C．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
D．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜３年後期＞ 理系化学γ特講							
第5部 高分子化合物							
第１章 高分子化合物の分類と特徴	１	高分子化合物の分類と特徴		○		○	・高分子化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 合成高分子化合物	８	合成繊維、プラスチック、ゴム		○		○	・合成高分子化合物について，組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解できる。
第３章 天然高分子化合物	１０	糖類、タンパク質、核酸、繊維		○		○	・天然高分子化合物について，組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解できる。
第４章 生活と高分子化合物	３	衣料、高分子化合物の利用		○		○	・有機化合物と生活との関わりを化学的な面から考えることができる。
センター試験対策	８	ｾﾝﾀｰ試験対策演習		○		○	
家庭学習期間	１６						

【基本情報】

教　　科	理　　科	**学　年**	３年	**教科書**	
科　　目	理系生物β	**単位数** (年間予定コマ数)	2 (78)	**副教材**	改訂版　生物（数研出版） セミナー生物（第一学習社）
科目概要	第３編　生物の環境応答　　第５章　動物の反応と行動　　第６章　植物の環境応答				
到達目標	・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノート等に写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナー（問題集）は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自で解くようにすること。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第５章　動物の反応と行動							
1　ニューロンとその興奮	8	ニューロンについて	○	○		○	外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを理解する。
2　刺激の受容	7	刺激の受容について	○	○	○	○	
3　情報の統合	7	神経系について	○	○		○	
4　刺激への反応	9	効果器について	○	○		○	
5　動物の行動	9	生得的な行動、学習による行動について	○	○	○	○	刺激に対する反応としての動物の行動について理解する。
第６章　植物の環境応答							
1　植物の生活と環境応答	6	屈性と傾性について	○	○		○	植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
2　発芽の調節	8	発芽の調節について	○	○		○	
3　成長の調節	8	成長の調節について	○	○		○	
4　環境の変化に対する応答	8	植物ホルモンについて　刺激の受容と反応について	○	○		○	
5　花芽形成・結実の調節	8	植物の光に対する応答と花芽形成について	○	○		○	

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	３年	教科書	
科　　目	理系生物γ	単位数 (年間予定コマ数)	２ (78)	副教材	改訂版　生物（数研出版） セミナー生物（第一学習社）
科目概要	第４編　生物と環境　　第７章　生物群集と生態系 第５編　生物の進化と系統　　第８章　生命の起源と進化　　第９章　生物の系統				
到達目標	・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノート等に写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナー（問題集）は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自で解くようにすること。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

		観点別評価	

単　元	配当時数	学習内容	A	B	C	D	到達目標
第７章　生物群集と生態系							
１　個体群	6	個体群について	○	○		○	個体群とその変動について理解する。
２　個体群内の個体間の関係	5	個体群内の関係について	○	○		○	
３　異種個体群間の関係	5	異種個体群間の関係について	○	○		○	
４　生物群集	5	生態系について	○	○		○	生物群集の成り立ちについて理解する。
５　生態系における物質生産	6	生態系の物質生産について	○	○		○	生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。
６　生態系と生物多様性	5	生態系と生物多様性について	○	○		○	生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
第８章　生命の起源と進化							
１　生命の起源と初期の生物の変遷	6	生命の起源と生物の変遷について	○	○		○	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。
２　多細胞生物の変遷	6		○	○		○	
３　進化のしくみ	7	進化の仕組みについて	○	○		○	
第９章　生物の進化							
１　生物の系統	5	生物の系統について	○	○		○	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する
２　生物の多様性	7	生物の分類について	○	○		○	
センター試験対策（家庭学習期間）	１５	過去問や予想問題の演習					

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　物理分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (156)	副教材	改訂版　物理基礎（数研出版）　（数研・物基３０７） 改訂版　物　　理（数研出版）　（数研・物理３０４） リードα物理基礎・物理（数研出版編集部）
科目概要	１．平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 ２．水面波・音・光などの波動現象 ３．電気や磁気に関する現象 ４．電子・原子および原子核に関する現象				
到達目標	１．力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 ２．波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ３．電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ４．原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留意事項	・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家庭学習	・復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持てているか。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	３０％	
Ｃ．技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	１０％	
Ｄ．知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	４０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜３年前期＞	計５９						
第２編　熱と気体							
第１章　気体のエネルギーと状態変化	８	気体の法則	○			○	・気体分子の運動と圧力の関係について理解できる。
		気体分子の運動	○			○	・気体の分子運動と内部エネルギーについて理解できる。
		気体の状態変化	○			○	・熱力学の第一法則について理解できる。
第３編　波							
第１章　波の伝わり方	６	正弦波，波の伝わり方	○			○	・正弦波の表し方について理解できる。
第２章　音の伝わり方	４	音の伝わり方，ドップラー効果	○			○	・音のドップラー効果について理解できる。
第３章　光	１０	光の性質	○			○	・光の反射，屈折，全反射，分散，スペクトル，散乱，偏光についてて理解できる。
		●実験　ガラスの屈折率の測定		○	○		
		レンズ	○			○	・レンズや鏡による像のでき方について理解できる。
		●実験　凸レンズの焦点距離の測定		○	○		
		光の干渉と回折	○			○	・ヤングの実験，回折格子について理解できる。
		●観察　回折格子による光の干渉		○	○		
前期中間試験	１						
第４編　電気と磁気							
第１章　電場	１０	静電気力，電場，電位	○			○	・クーロンの法則，電場と電位の関係を理解できる。
		●実験　等電位線の測定		○	○		
		物質と電場，コンデンサー	○			○	・コンデンサーの性質を理解できる。
第２章　電流	９	オームの法則，直流回路，半導体	○			○	・電流回路について理解できる。
第３章　電流と磁場	９	磁場，電流のつくる磁場	○			○	・電流がつくる磁場について理解できる。
		電流が磁場から受ける力	○			○	・電流と磁場の相互作用について理解できる。
		●実験　クリップモーターの製作		○	○		
		ローレンツ力	○			○	・荷電粒子が磁場から受ける力について理解できる。
前期期末試験	１						
＜３年後期＞	計７８						
第４章　電磁誘導と電磁波	２０	電磁誘導の法則	○			○	・電磁誘導について理解できる。
		交流の発生	○			○	・交流の発生のしくみについて理解できる。
		自己誘導と相互誘導	○			○	・自己誘導，相互誘導，変圧器のしくみについて理解できる。
		交流回路	○			○	・交流回路の諸性質について理解できる。
		電磁波	○			○	・電磁波の性質と利用について理解できる。
第５編　原子							
第１章　電子と光	８	電子，光の粒子性，	○			○	・電子の発見の歴史について理解できる。
		Ｘ線，粒子の波動性	○			○	・粒子性と波動性について理解できる。
第２章　原子と原子核	１０	原子の構造とエネルギー準位	○			○	・原子の構造とエネルギー準位について理解できる。
		原子核，放射線とその性質	○			○	
		核反応と核エネルギー	○			○	・核反応について理解できる。
		素粒子	○			○	・素粒子の存在について理解できる。
		物理学が築く未来	○			○	・科学技術が社会の基盤となっていることを理解できる。
後期中間試験	１						
センター試験対策（家庭学習期間）	３９						

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	化学（啓林館）
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　化学分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (156)	副教材	改訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜　２年　後期　＞							
第1部 物質の状態と平衡							
第１章　物質の状態とその変化	１２	物質の状態変化と粒子の運動		○		○	・物質の沸点、融点を化学結合と関連付けて理解できる。
		状態変化とエネルギー		○		○	・構成粒子の状態とエネルギーの関係について理解できる。
第２章 気体の性質	１５	気体の体積の変化		○		○	・気体の体積と圧力、温度との関係を理解できる。
		気体の状態方程式性質		○		○	・気体の体積の変化がわかり，圧力と体積の関係を式にまとめる事ができている。
		●探究活動　ボイル・シャルルの実験	○		○		
第３章 固体の構造	８	結晶と化学結合		○		○	・結晶格子の概念、構造を理解できる。
第４章 溶液の性質	１４	溶解平衡と溶解度		○		○	・固体と気体の溶解度を求めることができる。
		希薄溶液の性質、コロイド		○		○	・濃度と沸点､凝固点の関係やコロイドの性質を理解できる。
第2部 物質の変化と平衡							
第１章 化学変化と熱・光エネルギー	１０	反応熱と熱化学方程式		○		○	・ヘスの法則を用いて反応熱を求めることができる。
		光とエネルギー、ヘスの法則		○		○	・化学エネルギーの差と発生や吸収について理解できる。
		●探究活動　ヘスの法則の検証	○		○		
＜　３年　前期　＞							
第２章 化学反応と電気エネルギー	１８	電気分解		○		○	・電気分解における電極での反応を電子を用いて考えることができる。
		●探究活動　電気分解	○		○		
		電池		○		○	・酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みを理解できる。
第３章　反応速度	１２	反応速度化学反応と触媒		○		○	・反応速度と濃度、温度との関係が理解できる。
第４章　化学平衡	１８	平衡とその速度		○		○	・平衡移動の原理を理解できる。
		電離平衡		○		○	・ｐＨや弱酸、弱塩基の電離平衡について理解できる。
第3部 無機物質							
第１章 非金属元素と周期表	８	周期表と元素の性質、水素と希ガス		○		○	・非金属元素の単体や化合物の性質を理解できる。
		ハロゲン、酸素・硫黄、窒素・硫黄、		○		○	・典型元素の性質を周期表と関連させて考えることができる。
		炭素・ケイ素とその化合物		○		○	
＜　３年　後期　＞							
第２章 典型金属元素	９	アルカリ金属、２族元素とその化合物		○		○	・典型金属元素の単体や化合物について，その性質や用途を理解できる。
		アルミニウム・亜鉛などとその化合物		○			
第３章 遷移元素	９	遷移元素の特徴		○		○	・遷移元素の特徴を理解し日常生活と関連させて考えることができる。
		金属イオンの分離と確認		○		○	
		●探究活動　金属イオンの分離	○		○		
第４章 生活と無機物質	２	金属の利用、セラミックス		○		○	・身の回の金属について､その性質から考えることができる。
第4部 有機化合物							
第１章 有機化合物の特徴と構造	１	有機化合物の特徴と構造	○	○			・有機化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
		有機化合物の分析	○	○			
第２章 脂肪族炭化水素		飽和炭化水素、不飽和炭化水素	○	○			
第３章 酸素を含む脂肪族化合物		アルコールとエーテル、アルデヒドと	○	○			
		ケトン、カルボン酸とエステル	○	○			
第４章 芳香族化合物		芳香族炭化水素	○	○			
第５章 生活と有機化合物		医薬品、染料・洗剤、糖類とアミノ酸	○	○			
第5部 高分子化合物							
第１章 高分子化合物の分類と特徴	１	高分子化合物の分類と特徴	○	○			・高分子化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 合成高分子化合物		合成繊維、プラスチック、ゴム	○	○			
第３章 天然高分子化合物		糖類、タンパク質、核酸、繊維	○	○			
第４章 生活と高分子化合物		衣料、高分子化合物の利用	○	○			
センター試験対策	１２	ｾﾝﾀｰ試験対策演習		○		○	
家庭学習期間	２４						

【基本情報】

教　　科	理　　数	**学　年**	３年	**教科書**	改訂版　生物（数研出版）
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　生物分野　）	**単位数** (年間予定コマ数)	３ （156）	**副教材**	セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）
科目概要	第１編　生命現象と物質 第２編　生殖と発生 第３編　生物の環境応答 第４編　生物と環境 第５編　生物の進化と系統	第３章　遺伝情報の発現 第４章　生殖と発生 第５章　動物の反応と行動 第７章　生物群集と生態系 第８章　生命の起源と進化		第６章　植物の環境応答 第９章　生物の系統	
到達目標	・タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえることができるようになる。 ・動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解できるようになる。 ・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノートに写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナーは併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自家庭で解くようにすること。				
備　　考	・この授業は週４コマ実施する（年間総授業数１５６コマ）				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第３章　遺伝情報の発現							
１　ＤＮＡの構造と複製	5	ＤＮＡの構造、ＤＮＡ複製のしくみ、遺伝情報の発現について	○	○		○	ＤＮＡ複製の仕組み、遺伝子発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。
２　遺伝情報の発現	5	転写、翻訳について	○	○	○	○	遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理
３　遺伝子の発現調節	5	遺伝子の発現調節について	○	○		○	解する。
４　バイオテクノロジー	5	バイオテクノロジーについて	○	○		○	遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。
第４章　生殖と発生							
１　遺伝子と染色体	4	染色体について	○	○		○	減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み
２　減数分裂と遺伝情報の分配	4	減数分裂と受精について	○	○	○	○	合わせが生じることを理解する。遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。
３　遺伝子の多様な組合せ	8	遺伝子の連鎖と組換えについて	○	○		○	
４　動物の配偶子形成と受精	4	遺伝子と染色体について 配偶子形成と受精について	○	○		○	配偶子形成と受精の過程について、卵割から器官分化の始まりまでの過程を理解する。
５　初期発生の過程	8	初期発生の過程について	○	○	○	○	細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。
６　細胞の分化と形態形成	8	細胞の分化と形態形成について	○	○		○	
７　植物の配偶子形成と発生	8	配偶子形成と受精、胚発生について	○	○		○	配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解する。 被子植物の器官の分化の過程について理解する。
第５章　動物の反応と行動							
１　ニューロンとその興奮	5	ニューロンについて	○	○		○	外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを理解する。
２　刺激の受容	4	刺激の受容について	○	○	○	○	
３　情報の統合	4	神経系について	○	○		○	
４　刺激への反応	7	効果器について	○	○		○	
５　動物の行動	7	生得的な行動、学習による行動について	○	○	○	○	刺激に対する反応としての動物の行動について理解する。
第６章　植物の環境応答							
１　植物の生活と環境応答	2	屈性と傾性について	○	○		○	植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
２　発芽の調節	3	発芽の調節について	○	○		○	
３　成長の調節	3	成長の調節について	○	○		○	
４　環境の変化に対する応答	3	植物ホルモンについて　刺激の受容と反応について	○	○		○	
５　花芽形成・結実の調節	3	植物の光に対する応答と花芽形成について	○	○		○	
第７章　生物群集と生態系							
１　個体群	5	個体群について	○	○		○	個体群とその変動について理解する。
２　個体群内の個体間の関係	3	個体群内の関係について	○	○		○	
３　異種個体群間の関係	3	異種個体群間の関係について	○	○		○	
４　生物群集	2	生態系について	○	○		○	生物群集の成り立ちについて理解する。
５　生態系における物質生産	4	生態系の物質生産について	○	○		○	生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。
６　生態系と生物多様性	2	生態系と生物多様性について	○	○		○	生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
第８章　生命の起源と進化							
１　生命の起源と初期の生物の変遷	3	生命の起源と生物の変遷について	○	○		○	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。
２　多細胞生物の変遷	3		○	○		○	
３　進化のしくみ	5	進化の仕組みについて	○	○		○	
第９章　生物の進化							
１　生物の系統	2	生物の系統について	○	○		○	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する
２　生物の多様性	5	生物の分類について	○	○		○	
センター試験対策 （家庭学習期間）	１４	過去問や予想問題の演習					

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅲ （　地学分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (156)	副教材	地学基礎（啓林館）・地学（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） チェック＆演習 地学基礎（数研出版）・センサー地学（啓林館）
科 目 概 要	・地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。さらに発展的な学習をすることによって地学への理解をさらに深める。				
到 達 目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。 ・地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。 ・大学入試センター試験「地学基礎」「地学」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性や仕組みについて、学習内容と関連づけて考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。 ＊この授業は週４コマ実施する（年間総授業数１５６コマ）				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜　３年　前期　＞ **第１部　固体地球の概観と活動**		・重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを学ぶ。					・重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを理解する。
第１章 地球の概観	６	・プレートの生成・移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び，プレートテクトニクスとマントルの動きについて理解する。	○	○		○	・種々の地学現象を，プレートの生成や移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び，プレートテクトニクスとマントルの動きについて理解する。
第２章 プレートテクトニクス	１５			○	○	○	
第３章 地球の活動	１０	・地震や地殻変動，火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を，プレートの運動と関連させて学ぶ。	○	○	○	○	・地震や地殻変動，火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を，プレートの運動と関連させて理解する。
<u>第２部　地球の歴史</u>		・地層がどのように積み重なり，どのように広がって分布しているか表す地質図について学ぶ。また，造山運動による地質構造や変成岩の形成，地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを学ぶ。					・地層がどのように積み重なり，どのように広がって分布しているか表す地質図について理解する。 ・造山運動による地質構造や変成岩の形成，地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを理解する。
第1章 地表の変化と地層	９		○	○	○	○	
第２章 地球・生命・環境の歴史	８		○	○	○		
第３章 私たちの日本列島	１０	・生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と，生物が，46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを学ぶ。 ・日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史を学ぶ	○	○		○	・生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と，生物が，46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを理解する。 ・日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史を理解する。
＜　３年　後期　＞ **<u>第３部　大気と海洋</u>**		・大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ，雨や雲の形成について学ぶ。また，地球全体のエネルギー収支について学ぶ。 ・風の吹き方と大気の大循環について学び，世界と日本の気候に結びつけて理解する。	○			○	・大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ，雨や雲の形成について理解する。 ・地球全体のエネルギー収支について理解する。 ・風の吹き方と大気の大循環について理解し、世界と日本の気候に結びつけて理解する。
第１章 大気の構造	８						
第２章 大気の運動	１５			○	○	○	
第３章 海洋と海水の運動	１０	・地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と，海流や深層循環などの海洋の循環，津波や潮汐などの海水の運動について学ぶ。	○	○	○	○	・地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と，海流や深層循環などの海洋の循環，津波や潮汐などの海水の運動について理解する。
第４章 気候変動と地球環境	１０	・エルニーニョ現象などの自然な気候変動と，気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について，地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて学ぶ。	○	○	○	○	・エルニーニョ現象などの自然な気候変動と，気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について，地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて理解する。
<u>第５部　自然との共生</u> 地球環境と人類 自然災害と防災 に関する探究活動	１５	・地球環境と人類または自然災害と防災に関する探究活動を行う。	○	○	○	○	・地球環境と人類、自然災害と防災に関する探究活動を通して、諸課題に対する自身の意見を表現することができる。

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ物理研究	単位数 (年間予定コマ数)	２ (78)	副教材	物理基礎（数研出版）　（数研・物基３０７） 物　　理（数研出版）　（数研・物理３０４） リードα物理基礎・物理（数研出版編集部）
科目概要	１．平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 ２．水面波・音・光などの波動現象 ３．電気や磁気に関する現象 ４．電子・原子および原子核に関する現象				
到達目標	１．力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 ２．波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ３．電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ４．原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留意事項	・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家庭学習	・復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持てているか。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	３０％	
Ｃ．技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	１０％	
Ｄ．知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	４０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜３年前期＞	計５９						
第２編　熱と気体							
第１章　気体のエネルギーと状態変化	８	気体の法則	○			○	・気体分子の運動と圧力の関係について理解できる。
		気体分子の運動	○			○	・気体の分子運動と内部エネルギーについて理解できる。
		気体の状態変化	○			○	・熱力学の第一法則について理解できる。
第３編　波							
第１章　波の伝わり方	６	正弦波，波の伝わり方	○			○	・正弦波の表し方について理解できる。
第２章　音の伝わり方	４	音の伝わり方，ドップラー効果	○			○	・音のドップラー効果について理解できる。
第３章　光	１０	光の性質	○			○	・光の反射，屈折，全反射，分散，スペクトル，散乱，偏光についてて理解できる。
		●実験　ガラスの屈折率の測定		○	○		
		レンズ	○			○	・レンズや鏡による像のでき方について理解できる。
		●実験　凸レンズの焦点距離の測定		○	○		
		光の干渉と回折	○			○	・ヤングの実験，回折格子について理解できる。
		●観察　回折格子による光の干渉		○	○		
前期中間試験	１						
第４編　電気と磁気							
第１章　電場	１０	静電気力，電場，電位	○			○	・クーロンの法則，電場と電位の関係を理解できる。
		●実験　等電位線の測定		○	○		
		物質と電場，コンデンサー	○			○	・コンデンサーの性質を理解できる。
第２章　電流	９	オームの法則，直流回路，半導体	○			○	・電流回路について理解できる。
第３章　電流と磁場	９	磁場，電流のつくる磁場	○			○	・電流がつくる磁場について理解できる。
		電流が磁場から受ける力	○			○	・電流と磁場の相互作用について理解できる。
		●実験　クリップモーターの製作		○	○		
		ローレンツ力	○			○	・荷電粒子が磁場から受ける力について理解できる。
前期期末試験	１						
＜３年後期＞	計７８						
第４章　電磁誘導と電磁波	２０	電磁誘導の法則	○			○	・電磁誘導について理解できる。
		交流の発生	○			○	・交流の発生のしくみについて理解できる。
		自己誘導と相互誘導	○			○	・自己誘導，相互誘導，変圧器のしくみについて理解できる。
		交流回路	○			○	・交流回路の諸性質について理解できる。
		電磁波	○			○	・電磁波の性質と利用について理解できる。
第５編　原子							
第１章　電子と光	８	電子，光の粒子性，	○			○	・電子の発見の歴史について理解できる。
		Ｘ線，粒子の波動性	○			○	・粒子性と波動性について理解できる。
第２章　原子と原子核	１０	原子の構造とエネルギー準位	○			○	・原子の構造とエネルギー準位について理解できる。
		原子核，放射線とその性質	○			○	
		核反応と核エネルギー	○			○	・核反応について理解できる。
		素粒子	○			○	・素粒子の存在について理解できる。
		物理学が築く未来	○			○	・科学技術が社会の基盤となっていることを理解できる。
後期中間試験	１						
センター試験対策（家庭学習期間）	３９						

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	化学（啓林館）
科　　目	ＳＳ化学研究	単位数 (年間予定コマ数)	２ (78)	副教材	改訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）
科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。				
到達目標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。				
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜　２年　後期　＞							
第1部 物質の状態と平衡							
第１章　物質の状態とその変化	６	物質の状態変化と粒子の運動		○		○	・物質の沸点、融点を化学結合と関連付けて理解できる。
		状態変化とエネルギー		○		○	・構成粒子の状態とエネルギーの関係について理解できる。
第２章 気体の性質	７	気体の体積の変化		○		○	・気体の体積と圧力、温度との関係を理解できる。
		気体の状態方程式性質		○		○	・気体の体積の変化がわかり，圧力と体積の関係を式にまとめる事ができている。
		●探究活動　ボイル・シャルルの実験	○		○		
第３章 固体の構造	４	結晶と化学結合		○		○	・結晶格子の概念、構造を理解できる。
第４章 溶液の性質	７	溶解平衡と溶解度		○		○	・固体と気体の溶解度を求めることができる。
		希薄溶液の性質、コロイド		○		○	・濃度と沸点､凝固点の関係やコロイドの性質を理解できる。
第2部 物質の変化と平衡							
第１章 化学変化と熱・光エネルギー	５	反応熱と熱化学方程式		○		○	・ヘスの法則を用いて反応熱を求めることができる。
		光とエネルギー、ヘスの法則		○		○	・化学エネルギーの差と発生や吸収について理解できる。
		●探究活動　ヘスの法則の検証	○		○		
＜　３年　前期　＞							
第２章 化学反応と電気エネルギー	９	電気分解		○		○	・電気分解における電極での反応を電子を用いて考えることができる。
		●探究活動　電気分解	○		○		
		電池		○		○	・酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みを理解できる。
第３章　反応速度	６	反応速度化学反応と触媒		○		○	・反応速度と濃度、温度との関係が理解できる。
第４章　化学平衡	９	平衡とその速度		○		○	・平衡移動の原理を理解できる。
		電離平衡		○		○	・ｐＨや弱酸、弱塩基の電離平衡について理解できる。
第3部 無機物質							
第１章 非金属元素と周期表	４	周期表と元素の性質、水素と希ガス		○		○	・非金属元素の単体や化合物の性質を理解できる。
		ハロゲン、酸素・硫黄、窒素・硫黄、		○		○	・典型元素の性質を周期表と関連させて考えることができる。
		炭素・ケイ素とその化合物		○		○	
＜　３年　後期　＞							
第２章 典型金属元素	５	アルカリ金属、２族元素とその化合物		○		○	・典型金属元素の単体や化合物について，その性質や用途を理解できる。
		アルミニウム・亜鉛などとその化合物		○			
第３章 遷移元素	４	遷移元素の特徴		○		○	・遷移元素の特徴を理解し日常生活と関連させて考えることができる。
		金属イオンの分離と確認		○		○	
		●探究活動　金属イオンの分離	○		○		
第４章 生活と無機物質	１	金属の利用、セラミックス		○		○	・身の回の金属について､その性質から考えることができる。
第4部 有機化合物							
第１章 有機化合物の特徴と構造	１	有機化合物の特徴と構造	○	○			・有機化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
		有機化合物の分析	○	○			
第２章 脂肪族炭化水素		飽和炭化水素、不飽和炭化水素	○	○			
第３章 酸素を含む脂肪族化合物		アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステル	○	○			
第４章 芳香族化合物		芳香族炭化水素	○	○			
第５章 生活と有機化合物		医薬品、染料・洗剤、糖類とアミノ酸	○	○			
第5部 高分子化合物							
第１章 高分子化合物の分類と特徴	１	高分子化合物の分類と特徴	○	○			・高分子化合物の特徴から、身の回りにどのように応用されているか考えることができる。
第２章 合成高分子化合物		合成繊維、プラスチック、ゴム	○	○			
第３章 天然高分子化合物		糖類、タンパク質、核酸、繊維	○	○			
第４章 生活と高分子化合物		衣料、高分子化合物の利用	○	○			
センター試験対策	６	ｾﾝﾀｰ試験対策演習		○		○	
家庭学習期間	１２						

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	改訂版　生物（数研出版）
科　　目	ＳＳ生物研究	単位数 (年間予定コマ数)	２ (78)	副教材	セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）
科目概要	第１編　生命現象と物質 第２編　生殖と発生 第３編　生物の環境応答 第４編　生物と環境 第５編　生物の進化と系統	第３章　遺伝情報の発現 第４章　生殖と発生 第５章　動物の反応と行動 第７章　生物群集と生態系 第８章　生命の起源と進化		第６章　植物の環境応答 第９章　生物の系統	
到達目標	・タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえることができるようになる。 ・動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解できるようになる。 ・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノートに写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナーは併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自家庭で解くようにすること。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第３章　遺伝情報の発現							
１　ＤＮＡの構造と複製	３	ＤＮＡの構造、ＤＮＡ複製のしくみ、遺伝情報の発現について	○	○		○	ＤＮＡ複製の仕組み、遺伝子発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。
２　遺伝情報の発現	３	転写、翻訳について	○	○		○	遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理
３　遺伝子の発現調節	３	遺伝子の発現調節について	○	○		○	解する。
４　バイオテクノロジー	２	バイオテクノロジーについて	○	○		○	遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。
第４章　生殖と発生							
１　遺伝子と染色体	２	染色体について	○	○		○	減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み
２　減数分裂と遺伝情報の分配	２	減数分裂と受精について	○	○		○	合わせが生じることを理解する。遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。
３　遺伝子の多様な組合せ	４	遺伝子の連鎖と組換えについて	○	○		○	
４　動物の配偶子形成と受精	２	遺伝子と染色体について 配偶子形成と受精について	○	○		○	配偶子形成と受精の過程について、卵割から器官分化の始まりまでの過程を理解する。
５　初期発生の過程	３	初期発生の過程について	○	○		○	細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。
６　細胞の分化と形態形成	３	細胞の分化と形態形成について	○	○		○	
７　植物の配偶子形成と発生	３	配偶子形成と受精、胚発生について	○	○		○	配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解する。 被子植物の器官の分化の過程について理解する。
第５章　動物の反応と行動							
１　ニューロンとその興奮	２	ニューロンについて	○	○		○	外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを理解する。
２　刺激の受容	２	刺激の受容について	○	○		○	
３　情報の統合	２	神経系について	○	○		○	
４　刺激への反応	３	効果器について	○	○		○	
５　動物の行動	３	生得的な行動、学習による行動について	○	○		○	刺激に対する反応としての動物の行動について理解する。
第６章　植物の環境応答							
１　植物の生活と環境応答	２	屈性と傾性について	○	○		○	植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
２　発芽の調節	２	発芽の調節について	○	○		○	
３　成長の調節	２	成長の調節について	○	○		○	
４　環境の変化に対する応答	２	植物ホルモンについて　刺激の受容と反応について	○	○		○	
５　花芽形成・結実の調節	２	植物の光に対する応答と花芽形成について	○	○		○	
第７章　生物群集と生態系							
１　個体群	２	個体群について	○	○		○	個体群とその変動について理解する。
２　個体群内の個体間の関係	２	個体群内の関係について	○	○		○	
３　異種個体群間の関係	２	異種個体群間の関係について	○	○		○	
４　生物群集	１	生態系について	○	○		○	生物群集の成り立ちについて理解する。
５　生態系における物質生産	２	生態系の物質生産について	○	○		○	生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。
６　生態系と生物多様性	１	生態系と生物多様性について	○	○		○	生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
第８章　生命の起源と進化							
１　生命の起源と初期の生物の変遷	２	生命の起源と生物の変遷について	○	○		○	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。
２　多細胞生物の変遷	２		○	○		○	
３　進化のしくみ	２	進化の仕組みについて	○	○		○	
第９章　生物の進化							
１　生物の系統	１	生物の系統について	○	○		○	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する
２　生物の多様性	２	生物の分類について	○	○		○	
センター試験対策 （家庭学習期間）	７	過去問や予想問題の演習					

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	３年	教科書	
科　　目	ＳＳ地学研究	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	地学基礎（啓林館）・地学（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） チェック＆演習 地学基礎（数研出版）・センサー地学（啓林館）
科 目 概 要	・地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。さらに発展的な学習をすることによって地学への理解をさらに深める。				
到 達 目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。 ・地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。 ・大学入試センター試験「地学基礎」「地学」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性や仕組みについて、学習内容と関連づけて考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜　３年　前期　＞ **第１部　固体地球の概観と活動**		・重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを学ぶ。					・重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを理解する。
第１章 地球の概観	５	・プレートの生成・移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び，プレートテクトニクスとマントルの動きについて理解する。	○	○		○	・種々の地学現象を，プレートの生成や移動で統一的に理解しようとするプレートテクトニクスの枠組みについて学び，プレートテクトニクスとマントルの動きについて理解する。
第２章 プレートテクトニクス	８			○	○	○	
第３章 地球の活動	５	・地震や地殻変動，火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を，プレートの運動と関連させて学ぶ。	○	○	○	○	・地震や地殻変動，火山の噴火や火成岩の形成などのさまざまな地球の活動を，プレートの運動と関連させて理解する。
<u>第２部　地球の歴史</u>		・地層がどのように積み重なり，どのように広がって分布しているか表す地質図について学ぶ。また，造山運動による地質構造や変成岩の形成，地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを学ぶ。					・地層がどのように積み重なり，どのように広がって分布しているか表す地質図について理解する。 ・造山運動による地質構造や変成岩の形成，地層から情報を読み取って地質時代を組み立てることを理解する。
第1章 地表の変化と地層	７		○	○	○	○	
第２章 地球・生命・環境の歴史	７		○	○	○		
第３章 私たちの日本列島	７	・生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と，生物が，46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを学ぶ。 ・日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史を学ぶ	○	○		○	・生命活動の場である地球表層の地殻や大気・海洋と，生物が，46億年に及ぶ地球史の中でどのように変化してきたのかを理解する。 ・日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史を理解する。
＜　３年　後期　＞ **<u>第３部　大気と海洋</u>**		・大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ，雨や雲の形成について学ぶ。また，地球全体のエネルギー収支について学ぶ。 ・風の吹き方と大気の大循環について学び，世界と日本の気候に結びつけて理解する。	○			○	・大気中の水が気象に果たしている役割をとらえ，雨や雲の形成について理解する。 ・地球全体のエネルギー収支について理解する。 ・風の吹き方と大気の大循環について理解し、世界と日本の気候に結びつけて理解する。
第１章 大気の構造	７						
第２章 大気の運動	８			○	○	○	
第３章 海洋と海水の運動	８	・地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と，海流や深層循環などの海洋の循環，津波や潮汐などの海水の運動について学ぶ。	○	○	○	○	・地球環境の形成や維持に大きな役割を果たしている海洋の構造と，海流や深層循環などの海洋の循環，津波や潮汐などの海水の運動について理解する。
第４章 気候変動と地球環境	８	・エルニーニョ現象などの自然な気候変動と，気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について，地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて学ぶ。	○	○	○	○	・エルニーニョ現象などの自然な気候変動と，気候変動を引き起こす可能性がある人間の活動について，地球表層の物質の循環・輸送と関連づけて理解する。
<u>第５部　自然との共生</u> 地球環境と人類 自然災害と防災 に関する探究活動	８	・地球環境と人類または自然災害と防災に関する探究活動を行う。	○	○	○	○	・地球環境と人類、自然災害と防災に関する探究活動を通して、諸課題に対する自身の意見を表現することができる。

4．科目別シラバス

科　目　名	体　育	単　位　数（年間予定コマ数）	2（78）	学　年	3
教　科　書	現代高等保健体育（大修館書店）	副　教　材	アクティブスポーツ総合版（大修館書店）		
科目の概要	各種運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また自己の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育てるとともに、健康・安全に努め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
科目の到達目標	3年次選択制体育のねらい (1)　自己の状況(体力・得意不得意)に応じた運動の領域・単元・種目を選択して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を身につけさせる。 (2)　合理的・計画的な授業の実践を生徒自らが行えるようにさせる。 (3)　健康・安全面の配慮・確保を自他共に実践できる資質を養わさせる。 (4)　運動・スポーツに対する意欲・関心を高めるとともに公正・協力・責任・参画の態度を養わさせる。				
授業の進め方	*選択の仕方* ①　一人の生徒は1年間（4月～12月）に3種目(Aから1つ、Bから1つ、Cから1つ)を選択します。 ②　選択した種目ごとに班（グループ）ができ、その班ごと(グループごと)に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てます。 *授業展開* ①用具・施設の準備（種目ごとで役割分担・担当決め） ②準備体操（体操・柔軟運動・ストレッ チ・筋肉トレーニング等）※リーダー決め ③本時の授業について打ち合わせ・ミーティング ④活動（集団の目標・個人の目標にそった活動） ⑤後片づけ（モップ清掃、コート・グラウンド整備も含む） ⑥本時の授業反省（集団の目標に対して）と個人の活動記録・反省等をファイルに記入。次時の授業についてミーティング。 ⑦巡回体育教員から指導・助言 ⑧解散（種目ごと解散・更衣・次の授業の準備）				

評価規準	観点別	意欲・関心・態度	思考・判断・協力・責任・公正	知識・理解	運動技能
	評価の観点	① 全体を通して積極的に参加し、自己の言動が班員に良い影響を与えることができか。 ② 運動・種目に対して適切な身なりで活動できたか。 ③ 教える側・教わる側の姿勢を身につけたか。意見を伝える・話を聞き受け入れる姿勢を身につけたか。 ④活動・運動に適したＷ－ＵＰやＣ－ＤＯＷＮを実践することができたか。	① 単元計画・授業計画に自分の考えを反映させたり、決まった計画の遂行のために協力することができたか。 ② やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与する言動をしてきたか。 ③ 時間の有効活用に努めるとともに、班の中で不平等感がない活動を実践することができたか。 ④ 安全に留意した上での活動ができたか。	① 競技のルール・マナー等を 理解し遵守することができた か。 ② ゲームや発表会などの運営 にうまく携わることができた か。 ③ 記録をまとめたり、次の活 動のためのノートづくりでき たか。 ④ 練習内容や練習方法の研究 をしてきたか。	① 自分が立てた個人の目 標に到達できましたか。 ② 自分たちが立てた集団 の目標に到達できました か。 ③ 技能のレベルは上がり ましたか。作品の完成度 は上がりましたか。 ④ 体力の維持・向上に努 め、成果につながりまし たか。
	比重	25%	25%	25%	25%
	評価方法	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。	これらの観点を、生徒の個人ノートの内容と自己評価並びに巡回教諭が毎時間評価したものを、総合的に判断する。

授業を受けるにあたっての留意点 など	・上記目標を達成するためには、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ・個人的成長はもちろん、集団行動を通して、協調性などの社会的態度を身につけることが求められる。 ・時間や服装、ノート提出などの決まりをしっかりと守れないと減点する。
家　庭　学　習	教科書・副教材をもとに授業計画を立てる上で必要となる、知識や練習方法などの情報収集に努める。
備　　考	

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	到達目標（評価の観点）
体つくり運動 ※体力テストの実施	6	【体力を高める運動】 体力の三要素をさらに理解し、各要素の違いを体験する。 スポーツをする上で特に必要と考えられる筋力を専門的に高める。 【体ほぐしの運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進を図り、実生活に役立てるようにする。 【新体力テスト】３年目の実施	**観点①**　持久性・スピード・筋力の向上を目的とした運動を考え、実践できたか。 **観点②**　ウォーミングアップ・クーリングダウンの重要性と方法を理解し適切に実践できたか。 **観点③**　体ほぐしの運動の目的・方法を理解し、心も体もリラックスできる運動を実践できたか。
選択Ａ【グランド使用可の時に実施する選択種目】 ａ　テニス(６人～２４人) ｂ　ゴルフ(２人～１０人) ｃ　ソフトボール(１６人～４０人) ｄ　サッカー(１０人～３３人) ｅ　陸上競技(２人～１０人) ｆ　その他 【ａ～ｆの中から１種目選択。 （　）内の人数は開設人数枠】 **選択Ｂ** 【荒天時のグランド使用が不可の時、または選択Ａが終了以降に実施する選択種目】 ａ　バレーボール(１２人～２６人) ｂ　バスケットボール(１０人～２４人) ｃ　バドミントン（２人～２４人） ｄ　卓球（２人～２４人） ｅ　トレーニング・ダンス(２人～２０人) ｆ　その他 【ａ～ｆの中から１種目選択。 （　）内の人数は開設人数枠】 **選択Ｃ** 【選択Ａが１８時間・選択Ｂが１２時間終了した後に実施する選択種目】 ａ　バレーボール(１２人～２６人) ｂ　バスケットボール(１０人～２４人) ｃ　バドミントン（２人～２４人） ｄ　卓球（２人～２４人） ｅ　トレーニング・ダンス(２人～２０人) ｆ　その他 【ａ～ｆの中から１種目選択。 （　）内の人数は開設人数枠】 ※ただし、選択Ｂと選択Ｃは異種目を選択すること。	１８ １５ １５	***選択の仕方*** ①　一人の生徒は１年間に３種目を選択します。１種目目はグランド使用可の時の実施【選択Ａと呼びます】、２種目目と３種目目は荒天時のグランド使用が不可の時または選択Ａが終了以降に実施するもの【選択Ｂを１２時間・選択Ｃを１２時間】です。 ②　選択した種目ごとに班（グループ ）ができ、その班ごと(グループごと)に全体の授業計画や毎時間の授業計画を立てます。 ***各種目の内容*** **［サッカー］［テニス］［ソフトボール］［バレーボール］［バスケットボール］［バドミントン］［卓球］** 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連係した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 **［陸上競技］**　記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 **［器械運動］**　技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 **［柔道］**　技を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようにする。 **［ダンス］**　感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。 **［ゴルフ］**　生涯スポーツとして人気の高い種目を理解し実践することを通して、特有の楽しさ味わい、技能を身につけることができるようにする。	「選択Ａ」「選択Ｂ」「選択Ｃ」ともに次の観点①～④で評価していく。 **観点①　意欲・関心・態度【２５％】** (a)　全体を通して積極的に参加し、自己の言動が班員に良い影響を与えることができか。 (b)　運動・種目に対して適切な身なりで活動できたか。(服装・髪型・靴・帽子・手袋等) (c)　教える側・教わる側の姿勢を身につけたか。意見を伝える・話を聞き受け入れる姿勢を身につけたか。 (d)　活動・運動に適したＷ－ＵＰやＣ－ＤＯＷＮを実践することができたか。 **観点②　思考・判断・協力・責任・公正【２５％】** (a)　単元計画・授業計画に自分の考えを反映させたり、決まった計画の遂行のために協力することができたか。 (b)　やるべき事や徹底事項を自ら守り、班全体の活動の活性化に寄与する言動をしてきたか。 (c)　時間の有効活用に努めるとともに、班の中で不平等感がない活動を実践することができたか。 (d)　安全に留意した上での活動ができたか。 **観点③　知識の理解【２５％】** (a)　競技のルール・マナー等を理解し遵守することができたか。 (b)　ゲームや発表会などの運営にうまく携わることができたか。 (c)　記録をまとめたり、次の活動のためのノートづくりできたか。 (d)　練習内容や練習方法の研究をしてきたか。 **観点④　運動技能【２５％】** (a)　自分が立てた個人の目標に到達できましたか。 (b)　自分たちが立てた集団の目標に到達できましたか。 (c)　技能のレベルは上がりましたか。作品の完成度は上がりましたか。 (d)　体力の維持・向上に努め、成果につながりましたか。
体育理論	6	**豊かなスポーツライフの設計** ①生涯スポーツの見方・考え方 ②ライフスタイルに応じたスポーツ ③日本のスポーツ振興 ④スポーツと環境	各項目ごとに、座学を中心とした授業を行い、小テストを実施する。その評価は「知識・思考・判断」の観点に反映させる。
家庭学習期間	（１８）		
	合計７８		

【基本情報】

教　　科	芸術	学　年	３年	教科書	
科　　目	音楽研究Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	Tutti　音楽Ⅲ　改訂版（教育出版） MUSIC　NAVIGATION
科目概要	・実技を中心に授業を進めます。 ・内容は、歌唱（独唱・合唱)、器楽演奏（アルトリコーダー・和楽器)、鑑賞（作曲家の生涯と作品)、楽典（楽譜　の基礎知識・楽曲の構成） ・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。 ・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。				
到達目標	・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、より深みのある表現（歌唱・演奏）が出来る。 ・鑑賞を通して、音楽を感じる力とその表現力、また、音楽文化についての知識をより深める。				
授業の進め方	・歌唱では、発声練習を用いて、個々の技術力や感性をより磨き、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を磨けるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景との結びつきを探求し幅広く音楽文化に触れる。 ・鑑賞教材は、オペラ DVD を使用し、ストーリーを探求する。 ・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。 ・和楽器では、三味線を実施します。（音楽室にあるものを使用します。） ・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。 ・音楽史では、ギリシャ時代から現代までの流れを学習します。				
留意事項	・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。 ・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。 ・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取組み、音楽の素晴らしさを体感する。 ・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。				
家庭学習	・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。（２０分位）				
備　　考	・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、持っていない人は準備しておいてください。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取組み、 得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
Ｂ．思考・判断・表現	表現（歌唱や器楽）分野で、 基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
Ｃ．資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
Ｄ．知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。
Ｅ．		%	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
楽典 （基礎本的音楽知識）	7	音楽を形成している様々な要素について学習し､楽譜や音符に関して理解し､表現（歌唱・演奏）できるよう取り組む。 □音符 □音楽用語 □強弱記号 など □小テスト		○		○		授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。 表現（歌唱・演奏）するにあたって 必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。
表現（独唱）	6	基本的な発声（腹式呼吸・ベルカント唱法） を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら､また､音楽的背景や文化的背景を理解しながら、より難しい楽曲にチャレンジします。 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 など □実技テスト			○		○	曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、 イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
表現（合唱）	6	発声練習･パート練習・全体練習の流れで練習し、ハーモニー感を味わいながら合唱を完成していく。（個々の努力が不可欠ですので、積極的に取り組むように） □２重唱 □３重唱 など	○		○			パートの音楽的役割を理解し、ハーモニーや音楽表現を通して、合唱の素晴らしさを体感する。 １年間の集大成として、合唱発表会を実施し、成果の発表をする。
器楽(アルトリコーダー)	9	リコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、豊かな表現を工夫しながら演奏する。 □音階（アルペジオ） □練習曲（様々な調での演奏） □楽曲 など □実技テスト			○		○	様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。
鑑賞 （作曲家の生涯と作品）	１１	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。また、各国・我が国の音楽や郷土の伝統音楽の種類と特徴を理解して鑑賞します。 □オーケストラ □オペラ □ミュージカル など □確認テスト				○	○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と社会、音と生活について考察する。 □確認テストにより、内容把握や作曲家の意図するものやその時代背景との関連を探り、楽曲の完成度を味わう。

【基本情報】

教　　科	芸術	学　年	３年	教科書	
科　　目	美術研究Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	１ （３９）	副教材	
科 目 概 要	・感性を高め、創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 ・造形的要素を深く追求し、個性を生かして創造的な表現を追求させる。				
到 達 目 標	・造形的要素を深く追求し、主題に合った表現方法を工夫して表現できるようになる。 ・主題について自ら考え、アイデアを練り、創造的に表現することができるようになる。 ・多種多様な美術作品に触れ、その良さを感じ取り、自己の表現に生かすことができる。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、実技が中心です　。 プリントやDVD・スライド等による鑑賞をおこないます。				
留 意 事 項	・実技が中心なので、作品は出来る限り完成させて提出するようにしてください。 ・毎時間の取り組み姿勢を重視します。受け身にならず、集中して積極的に制作に取り組むようにしてください。 ・教科書、鉛筆（B、２Ｂ程度のもの）、消し具は毎回忘れずに用意してください。 ・絵の具、スケッチブックは美術室内に保管します。				
家 庭 学 習	基本的に必要ありませんが、作業が遅れて時間内に完成できない場合は、家庭での制作が必要となる場合もあります。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現技法や美術文化に関心をもち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	１０％	授業に取り組む姿勢や積極性を評価します。
Ｂ.発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。	３０％	スケッチブック等のアイデアスケッチやメモ。作品の制作過程から評価します。
Ｃ．創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能をも身に付け、主題にあった表現方法を工夫し創造的に表しているか。	５０％	提出された作品をもとに評価します。
Ｄ．鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや　美しさを多様な視点から創造的に味わおうとしているか。	１０％	鑑賞ノートなどの提出物で評価します。

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
静物デッサン	16	・観察による表現 ・質感描写 ・量と空間の把握 ・明暗の階調	○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		・対象の部分を細かく観察することで美しい形や明暗を発見することができる。 ・量と空間のバランスを考えて構成することができる。 ・鉛筆の特徴を生かし美しい階調やタッチを工夫することが出来る 。
鑑賞　現代のデザイン	1	・現代デザインの始まり ・生活と芸術の関わり	○ ○			○ ○	・現代のデザインのもとになった運動について理解し、日常生活の中でのデザインとの関わりについて理解を深め親しむことができる。
イラストレーション	22	・伝える内容を考え、資料を集める ・構想を練る ・意図に応じた画材の選択 ・個性的な表現方法の工夫 ・意図に応じた配色	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○		・伝える内容を考え、アイデアスケッチで構想を練ることができる。 ・意図に応じて描画素材の選択し、技法を工夫して表現することができる。 ・色彩の表現効果を考え、配色を工夫することができる。
	３９						

【基本情報】

教　　科	芸術	学　年	３年	教科書	
科　　目	書道研究Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	墨心
科目概要	生徒の能力・適性・興味・関心等に応じた活動を展開し、個性豊かな書の能力を高めます。 書の文化や伝統についての理解を深めます。				
到達目標	個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ物を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	１０％	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
Ｂ．書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	２０％	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
Ｃ．創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけ表している。	６０％	提出された作品を評価します。
Ｄ．鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	１０％	書の美しさを知識として理解しているか評価します。
Ｅ．		%	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	1	シラバスの説明 各自の目標設定	○					半年間の授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書１	8	商品名を書く 作品制作	○	○	○	○		商品に合う名前を考え、表現を工夫しようとする。 客観的に認められる表現を追求しようとする。
漢字の書１	２０	臨書（自由課題） 作品制作	○	○	○	○		調べ学習への意欲を持つことができるようにする。 課題に向かって深く追求することができるようにする。
漢字仮名交じりの書２ 漢字の書２	１０	刻字 作品制作	○	○	○	○		彩色を加え、室内鑑賞用に仕上げようとする。